

## 運動体としての実顕地 その中身は

- 過ぎ去った実態にしがみつくなのではなく、先端の実態に触れようとする。
- 新しいことをやってみよう！
- 新しいことをやると、自分の枠が広がる。  
自分の枠が広がると、実顕地の枠が広がる。  
実顕地の枠が広がると、社会が変わる。
  
- 守りの姿勢から攻めの姿勢へ。
- 変化、失敗を恐れない。
- 失敗ってなんだろう？
- 何が起きるかわからないから楽しい。
- 事なかれ主義からは何も生まれない。
- 周りに迷惑をかけたらダメなのか。
- あえて逆をやって試(み)る。考えて試(み)る。
  
- 結果的楽しさなんかつまらない。
- 何か事が起こった時こそ一番頭が働く。その面白さ。
- 保証による安定感より、生み出す安定。
- 事柄は何とでもなる、どうなってもOKやな。
- 活気、勢いを織り込む……問題が消えていく。
- 消極的内向性から運動的・活動的に。
- 「やがて世界中がそうなる」— 世界中をそうする、ではない。
- 若者が寄ってくる実顕地に。
  
- ヤマギシ会がここまで来たのは、最初に頓挫してほとんど潰れかけたからでしょう。それを噛みしめることが重大なことで、あの失敗が私をヤマギシ会へ引き寄せたのであって、成功が私を引き寄せたわけではない。それぞれの失敗は必ずきっかけになる。全体の成功したものの上につかってやったとしたら、これはまずいんじゃない？（鶴見俊輔）